

勝山を学生のフィールドに

この夏、勝山市が今年度から始めた合宿費補助を利用して、多くの学生が、勝山で宿泊し、各地で合宿を行いました。

また、昨年に市と包括的相互協力協定を結んだ関西学院大学からも、インターンシップやイベント参加のために、多くの学生が勝山を訪れました。



勝山の魅力を県外の若者に

今年度から、県外の大学生などを対象に、市内の宿泊施設を使って合宿する団体に対して、1人あたり1日1000円を補助する「学生合宿誘致事業」を始めました。

勝山に宿泊してもらうことで、県外の若者に勝山の魅力を伝え、将来的には合宿だけでなく、観光客としても勝山を訪れてもらえることを期待しています。

半年で昨年の5倍以上

9月末現在での宿泊延べ人数は、4495人で、昨年1年間の合宿者と比べると、その数は5倍以上となっています。

合宿を行った団体は、京都大学男子バスケットボール部や関西学院大学女子ラクロス部など、関西方面の大学が多く、活動内容も、スポーツ系の部活動から能楽やゼミなど、幅広いものでした。

合宿施設の充実を

しかし、市内で宿泊するものの、活動するための体育施設が不足していることもあって、半数近くの団体が近隣市町の施設を使って練習や活動を行っていました。

今後は、市内の体育施設だけを使って十分に合宿することができるよう、施設の充実を図っていくことも必要と

なります。

ラクロスで市民と交流

8月7日、合宿中の関西学院大学女子ラクロス部と市民約20人が、ラクロスを通して交流しました。



交流の様子

参加者は、学生からラクロスのルールや基本的な動作を学び、最後にはミニゲームを行って交流を楽しみました。

関西学院大学女子ラクロス部

主将 山田温子さんの話

「昨年も勝山で合宿し、そのときも交流会を行ったのですが、あいにく天気が悪くて、体育館で行うことになり残念でした。でも今年は天気も良くて、外で思いっきりできてよかったです。」

また来年も勝山で合宿を行い、市民の皆さんと交流ができればいいと思います。」



山田温子さん



ワンダーフォーゲル in 勝山の様子



インターンシップの様子

関西学院大学との交流

8～9月にかけて、インターンシップ（就業体験）に参加するため、同大学の学生12人が勝山を訪れ、約1週間、夏祭り準備や広報紙の作成など市役所のさまざまな仕事を体験しました。

また、夏の恒例行事「ワンダーフォーゲルin勝山」も行われ、同大学ワンダーフォーゲル部の学生と市内の小学生が、キャンプや登山を通して交流しました。

エコ環境都市をめざして

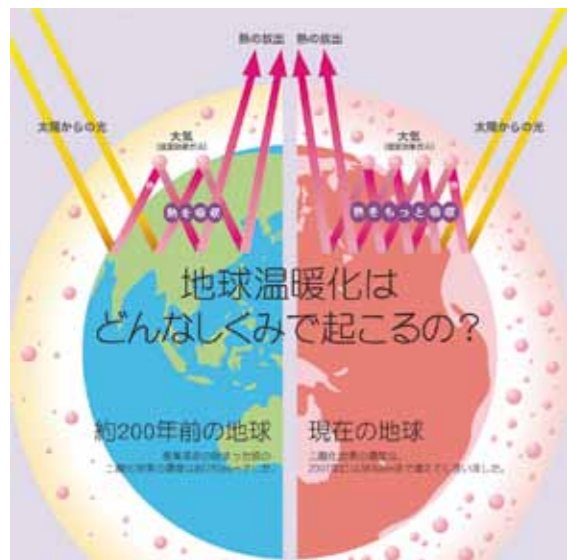
地球温暖化防止に向けて

今年の夏は記録的な猛暑となりました。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の調査によると、世界の平均気温は、過去100年で0.74℃上昇し、特に日本では約1.0℃上昇しています。この結果、近年、平年に比べて極端に気温の高い、異常高温の発生数が増加傾向にあると報告されています。

この、平均気温が上昇する地球温暖化現象の原因として、「温室効果ガス濃度の上昇」が挙げられています。

温室効果ガスとは、地球表面の熱を地球の外（宇宙空間）へ逃がさない役割を果たしている気体のことです。これが増えることによって、地球表面に熱がたまり、地球温暖化を引き起こしていると考えられています。

温室効果ガスの代表的なものとして、二酸化炭素やメタンがあります。これは、人間活動において、ガソリンなどの化石燃料を消費することで、大量に発生します。18世紀にイギリスで起こった産業革命以前と比べ、大気中の二酸化炭素濃度は、約35%



提供：全国地球温暖化防止活動推進センター

図1 ガス別排出量の割合

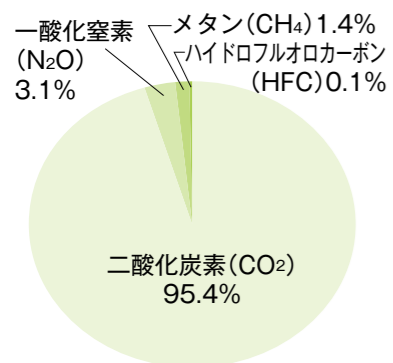


図2 燃料等別ガス排出量の割合

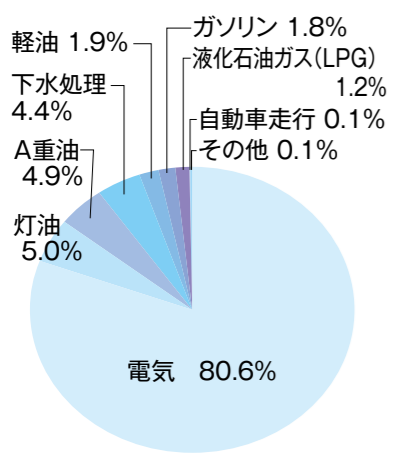


表1 勝山市役所の事業活動における温室効果ガス別排出量

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量(t)
二酸化炭素(CO ₂)	5,173
一酸化窒素(N ₂ O)	171
メタン(CH ₄)	78
ハイドロフルオロカーボン(HFC)	1
合計	5,423

表2 勝山市役所の燃料等別温室効果ガス排出量

活動項目	温室効果ガス排出量(t)
電気	4,355
灯油	274
A重油	271
下水処理	244
軽油	104
ガソリン	101
液化石油ガス(LPG)	69
自動車走行	4
その他	1
合計	5,423

市役所の事業活動における温室効果ガスの排出量

平成21年度の市役所の事業活動における温室効果ガス総排出量は、5,423tでした。これは、同年度の市全体のごみ処理量(約7500t)の約70%に相当する量です。

温室効果ガス別の排出量では、二酸化

化炭素の排出量が最も多く約95%を占めています。また、燃料等別では、電気の使用における排出量が約80%を占めています。

二酸化炭素は、化石燃料の消費や電気の使用により発生するため、市では今後も更なる省エネルギー対策を進めていきます。

生活環境課

(☎88-8104)